

イヌワシの保全に向けた新たな取り組みがはじまります！

自然・環境マネジメント研究部 生態研究グループ

布野隆之



イヌワシは、翼開長2mに達する大型のワシです（写真1）。国内では絶滅危惧種に指定されています。県内では但馬地方に2ペアが生息します。

昨年、県内の1ペアから1羽のヒナが巣立ちました。実に16年ぶりの快挙でした。しかし、巣立ったヒナは1ヶ月で姿を見せなくなり、死亡しました（写真2）。

16年ぶりに誕生したヒナの死亡は、イヌワシ生息地の「異変」を教えてくださいました。その異変は「エサ不足」です。県内のイヌワシは通常、6月上旬に巣立ちます。しかし、16年ぶりに誕生したヒナは、7月上旬に巣立ちました。巣立つ時期が1ヶ月も遅かったのです。既往の研究により、巣立ちの遅延はエサ不足に起因することが知られています。つまり、16年ぶりに誕生したヒナは、エサを十分に摂食できず、巣立ちが大幅に遅れたと考えられるのです。

エサが不足する限り、イヌワシの繁殖は成功しません。そこで、来年度から「但馬イヌワシ・エイド・プロジェクト」と銘打って、イヌワシのエサ不足を解消する取り組みがスタートします。今から10年後、イヌワシは兵庫の大空を舞っているのでしょうか？県内のイヌワシは、今、大きな岐路に立たされています。



（写真1）大空を舞うイヌワシ



（写真2）巣立ち後に死亡したイヌワシのヒナ